ー東京湾岸地域及び圏央道料金社会実験に関するアドバイザー会議委員の意見ー 資料2

今回の料金社会実験の結果について、東京湾岸地域及び圏央道料金社会実験に関するアドバイザー会議（委員長:杉山武彦一橋大学学長）の委員のうち、学識経験者から意見を頂いたところであるが、主な意見について以下に示す。

・今回の社会実験では、いずれも実験の企図の方向性に沿った結果が見られ、今後、本格的に導入していくべきものと評価できる。本格実施された場合には、認知率の向上や路線免許事業者の業務交通の転換により、現在の実験結果以上の効果の発現が期待できる。

・料金の設定は、「わかりやすさ」「使いやすさ」の観点が重要であり、複数のルート選択が可能となる東京湾岸や圏央道の料金設定に際しては、将来的に同一発着地点で同一料金を基本とするといった本実験の方向性を進めていくことが適切である。

・「ベイ割」による湾岸ルートからアクアラインルートへの交通転換は、湾岸線（東関東道、京葉道路）の交通量と比べれば小さいが、湾岸地域の渋滞緩和・環境改善にも寄与するものと考えられる。こうした効果は交通流特性を踏まえた定量的評価により、的確に把握できる。

・「ベイ割（特定区間割引）」は、対象ICでの明確な転換が見られる。今後は、転換をより促進する観点や、境界となる隣接ICでの大きな料金差を生じることによる非効率な利用が見込まれるため、対象ICの範囲の拡大を図ることが望ましい。

・圏央道料金割引により、国道16号や八王子IC周辺の交通量の減少や渋滞の減少が見られる。変化量としては小さいかも知れないが、都心の通過交通も減少しているのではないか。今回の実験は中央道～関越道の、環状道路としての機能としては限定的な区間での実験であるが、今後圏央道が東名高速や東北道まで接続されれば、更なる効果も期待できる。

今後、同会議として社会実験の評価及び今後の料金施策にあたっての助言を取りまとめていく。

杉山　武彦	一橋大学学長
屋井　鉄雄	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授
赤羽　弘和	千葉工業大学工学部建築都市環境学科教授
太田　和博	専修大学商学部教授